

神奈川・県立 **田奈高校**

「大人への信頼」と「自分への自信」を もたせたい

取材・文／永井ミカ 撮影／福田依子



≫実践ノウハウ

- 生徒一人ひとりとこまめにコミュニケーションをとる
- 「進路」と「生活」を同時展開。労働についての学びも強化
- 職場見学体験などで外部の力を借り、自信をつけさせる

神奈川県横浜市、郊外型の閑静な住宅街の中に位置する県立田奈高校。2005年の学区撤廃以前は横浜北部学区の1校だったが、この学区には普通科全日制高校しかなかったこともあり、78年の開校以来「学力下位層の生徒たちを引き受け社会に送りだしていく普通科高校」という学校づくりをしてきた。進路状況は進学、就職、未定がほぼ3分の1ずつという多様校である。

昨年度より、前期入試から学力検査をなくし、面接重視の方向に。また、古くから、30人規模のクラス、15人の集団による英語と数学の学習（1・2学年）、情報や家庭科のチームティーチングなど、一人ひとりにきめ細かい指導を実践している。08年度までは文部科学省の学力向上拠点形成事業の指定校。現在は同省の教育研究開発学校、神奈川県教育委員会のクリエイティブスクールなどの指定を受けている。

1・2学年の「総合」を中心に 学校活動全体でキャリア教育

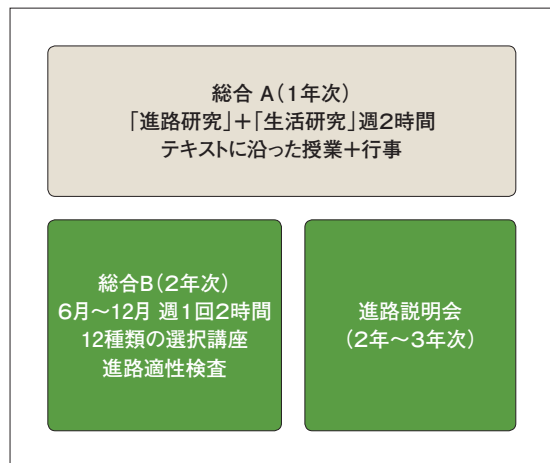
田奈高校のキャリア教育は、1学年の「総合A」（2単位）と2学年の「総合B」（1単位）を柱に展開されている（図1）。テーマは「かけがえのない自分を大切にしよう」（図2）。同校の生徒の実態から考えて、キャリア形成のうえで最も必要なのは「大人への信頼」と「自分が社会で役立つ自信」とし、外部の力を借りた体験学習と、自分たちに

身近な生活の問題から考える授業で構成されるプログラムを組んだ。

一方で、プログラムとは別に、教科指導、学級活動、行事などすべての学校活動全体をキャリア教育としてとらえているのも同校の特徴だ。その手段としてコミュニケーションを重視し、30人規模のクラスづくりや、1学年教室の近くに「学年室」を置くなど、教員と生徒が対話できる環境づくりを実施。保護者との連携もとれるよう、年3回の三者面談も行っている。もちろん、キャリア教育プログラムのなかの体験学習やグループディスカッションも、コミュニケーションによって自信をつけさせる工夫のひとつとなっている。

生徒の生活環境や進路希望などが非常に多岐にわたるため、一人ひとりに合わせたきめ細やかな指導が欠かせないのである。

図1 3年間のキャリア教育プログラム



>> School Data

普通科／1978年創立

生徒数／667人(男子280人・女子387人)

進路状況(2007年度実績)／大学・短大 24.5%

専門学校 23.5%・就職 24.0%・その他 28.0%

神奈川県横浜市青葉区桂台2-39-2

TEL 045-962-3135

URL <http://www.tana-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

Process

立ち上げのプロセス

定員割れを起こした学校を
立て直すために進路学習を

田奈高校のキャリア教育の歴史について語ってくださいしたのは副校長の中野和巳先生。この発端は90年代初頭にさかのぼる。「当時、田奈高校は多くの問題を抱えていました。バブルが崩壊し高卒の求人が一気に減ったこと、中途退学する生徒が多かったことなどです」

そんな折り、田奈高校は募集人員に対する大幅な定員割れを起こす。そこで2次募集をかけた結果、比較的学力の高い生徒が集まり、同じ学年の生徒たちのなかに大きな学力差が生まれてしまったのだ。クラス経営もいっそう難しくなり、教員たちは「このままでは学校が崩壊する」という危機感を抱いたという。

この状況を打開するため、公募と選挙で選ばれた教員5人による学校改革推進委員会が発足。毎週2時間優先的に会議の時間を設け、およそ1年かけて学校分析を行った。そして作り上げた学校改革案のひとつの柱が進路学習である。

「生徒たちを社会人として送り出すには、既存のカリキュラムでは対応できない。そこで、当時はキャリア教育と呼んでいませんでしたが、進路について考える時間を設け、早い段階から目的意識を持つてもらおうと考えたのです」

図2 キャリア教育のテーマと目標

キャリア教育のテーマ		かけがえのない自分を大切にしよう～自信をもって前を向いて歩く力を身につける		
キャリア教育の全体目標		1.自分自身を理解し、自分の良さに気づく 2.他者の生き方・考え方を理解し、受容する 3.社会に対する知識を深め、社会に踏み出す力をつける 4.多くの人々との関わり方を学ぶ		
学年のキャリア教育目標 (キャリア発達課題)		第1学年 自己理解 (自分の良さを知り、自己効用感を手に入れる)	第2学年 自己拡充 (他者との関わりの中で自分を活かす道を探る)	第3学年 自己実現 (自分を大切にできる方向を見つける)
キャリア諸能力		キャリア教育を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度		
自己教育能力	自己理解能力	●自分の良いところ、得意なことを見つけ、それを人に伝えることで整理・深化させる【総合】 ●職業レディネステストで自己の志向性について理解する【LHR・進路指導】	●自分の得意なものを活かせる関わり方を探る ●社会の中で自分の能力がどのように活かせるかを考える ●R-CAP受検を通して自己の志向性理解を深化させる【総合・インターンシップ・進路指導】	●自分の能力・適性を見極め、理想に近づくためには何をなすべきか理解し、きちんと努力する【担任指導・進路指導】
	自己表現力	●自分の考えを他者にわかるようにまとめる能力を培う ●自分の考えを他人にわかるように発表する【教科指導・学級活動】	●自分の思いを冷静に理論的に伝える力を養う ●多くの人の前でも臆することなく意見を述べられるようにする【教科活動・学級活動】	●自分の特徴・進路に対するビジョンを明確に話したり、書いたりできるようにする ●自分の考えを自信をもって伝えられるようにする【担任指導・進路指導】
人間関係能力	他者理解能力	●新しい人間関係の中で他者を知るように努める ●自分の言動が相手に及ぼす影響を理解する【学級活動・特別活動】	●他者の良さを理解し尊重する ●多様な考え方があることを知り、自分と異なる価値観を受け入れる【学級活動・特別活動】	●学校内外の人々と触れ合うことにより、異年代の人々の考え方を受容できる姿勢を身につける【進路指導】
	コミュニケーション理解能力	●「春の遠足」や「体育祭・文化祭」清掃活動などで協力・共同することの大切さを知る ●マナー講習やグループ学習を通して人と関係を築く基礎となるマナーの重要性を知る【総合・学校行事・学級活動】	●「修学旅行」ほか様々な学校行事の中で他人の意見を尊重することを知る ●係活動などを通して、適切な伝達ができるようになる【学校行事・学級活動】	●異年代の人々と十分に関わることができると話したり聞き方を身につける ●様々な場面で初対面の人とも臆することなくコミュニケーションがとれるようにする【進路指導】
情報活用能力	情報収集・活用能力	●情報収集のためのツールを理解し、活用できるようにする【総合】	●様々なメディアを通して、情報を集めることができ、必要な情報を取捨選択することができる ●情報活用に伴うリスクを理解し、正しい情報活用が行えるような知識を手に入れる【総合・情報】	●進路実現に必要な情報を収集し、活用していくことができ、前向きに進む力を手に入れる【進路指導】
	職業理解能力	●「職場体験学習」を通して様々な仕事を支える分野があることを知る ●働くことの重要性・難しさを実感する【総合】	●「インターンシップ」等を通じて、労働に伴う責任を理解し、同時に責任を果たすことの充実感を知る ●職業人と触れ合う機会を得て、勤労観の確立を目指す【総合】	●獲得した勤労観に基づき、自己の将来設計を具体的に描くことができる ●求人情報を正しく読み取って自己の進路実現に活かす【進路指導】
将来設計能力	役割把握・認識能力	●クラスの仕事や親睦・学校行事の成功のために、自己の役割を意識し実行する【学級活動・学校行事】	●社会の中で自己が果たしうる役割を意識しながら、自己の責任をしっかりと果たす【総合・学級活動・学校行事】	●最終学年の自覚を持って校内諸行事に取り組む ●社会の中で自己が果たしうる役割を実現できるよう努力する【学校行事・進路指導】
	計画実行能力	●社会に出てからの必要性を意識して、学習や基本的生活の習慣を身につける【担任指導・教科指導・生活指導・三者面談】	●学習習慣・基本的生活習慣を確立させ、社会生活のルール・マナーを自覚して行動する ●進路を実現するために必要なスキルを着実に身につけさせる【担任指導・教科指導・生活指導・インターンシップ】	●職業についての総合的・現実的理解に基づき、将来を設計し進路計画を立案する【三者面談・進路指導】
意思決定能力	選択・決定能力	●教員や保護者任せにせず、自ら適切に判断して行動する意志を育む【三者面談・学級活動】	●保護者・教員のアドバイスに耳を傾け、自己の責任において行動できるようにする【三者面談・学級活動】	●選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす【進路指導】
	課題解決能力	●「入学時の決意」、普段の学習・生活状況の振り返りから、反省し目標を立てて取り組む姿勢を作る ●校内模擬試験・各種検定試験・校内講習等に参加する【三者面談・特別活動】	●自己の目標を見定め、そこに向けて確実な努力を続ける ●各種進路説明会に参加し、問題の所在を明確にする ●校内模擬試験・各種検定試験・校内講習等に参加する【特別活動・三者面談・進路指導】	●進路実現に向けて努力しなければならない問題を明確にして、あきらめることなく前進できるよう努力する ●将来の夢を実現可能なものにするよう、問題を整理する【三者面談・進路指導】



研究開発グループ
吉田美穂先生



進路支援グループ
長島一浩先生



進路支援グループリーダー
伊東淳子先生



副校長
中野和巳先生



校長
中田正敏先生

まずは96年、2学年に職場見学を導入。そして、総合学科の「産業社会と人間」を参考に「進路研究」というオリジナルテキストを作成。飽きずに学んだり作業ができるよう記入部分を多くするなど工夫を凝らしている。97年には、1学年を対象に、週に1時間の「進路研究」の授業がスタート。社会人や卒業生の講演など、随時できることからやっていった。

当時、校内で反発があまりなかったのは、大幅な定員割れという事実があったことが大きい。「何かしないと学校が崩壊すると皆が感じていました。明確な展望などはありませんでしたが、とにかくやるしかなかった」と中野先生。進路研究は03年から総合的な学習の時間へと引き継がれ、06年からは1学年全員参加の職場見学体験を実施。開始からおよそ10年かけてはぼ今の形となった。

Close up ① 生徒との対話

生徒に話しかけることが キャリア教育の第一歩

「田奈高校の指導には隠れた味があります」と言うのは、校長の中田正敏先生。学校改革と同時に力を入れてきた、生徒との対話だ。特にシステム化されたり明文化されているわけではないが、とにかくまずは生徒と話をすることからすべてが始まる。

学校改革前の田奈高校には、教員と生徒が対立するようなピリピリとしたムードがあった。例えば徹底した頭髪指導を行い、それには教員も疲れていたというのが本音だ。そこで優先順位を変え、頭髪についてはひとまず後回しにした。それより、一人ひとりの生徒とコミュニケーションをとり、いい関係性をつくることを重視した。「厳しい指導をしなければもつと学校が荒れる」との反対意見もあったが、学校の雰囲気は徐々によくなっていた。対立路線から協調路線への変更に、これが田奈高校にとって大きな転機となったのだ。

今も、田奈高校の教員の多くは「だめ」と言わない指導を心がけている。授業をさぼる生徒がいても、「だめ」とは言わず「どうしたんだ？」と聞いてみる。そしてそれがキャリア教育の第一歩だという。田奈高校の生徒にとって、社会に出るために必要なもののひとつは「大人への信頼」だからだ。そして、もうひとつ必要なものは「自信」。進路支援グループリーダーの伊東淳子先生は言う。

「教員はまず自分を認めてもらわないと指導ができないため、とにかく第一歩として機会を見つけて話しかけることから始めます。生徒は、一度心を許してくれると、様々な事情や思いをぶつけてきます。驚くような話もあります。変わった希望もあります。けれども話を聞いた以上、否定しないで一緒に考えます。生徒には、少しでも自分に自信をつけ、前を向いて歩いていく力をつけてほしい。田奈高校のキャリア教育はそれに尽きるんです。だから、学級活動も教科活動も含め、学校での活動全部がキャリア教育です」

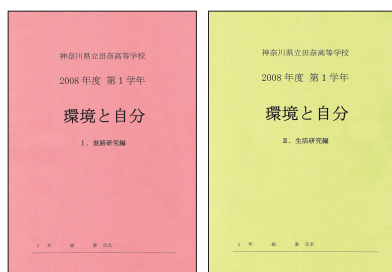
同じく進路支援グループの長島一浩先生も続ける。「担任業務のすべてがキャリア教育だと感じています。家庭に複雑な事情を抱えている生徒も多く、よくがんばって通って来ているなと思うんです。だから、まずは受け入れよう。何があっても声をかける。接触する。言い方は語弊があるかもしれないけれど、生徒を逃さない。自己肯定感をもってもらいたいです」

担任と関係性がない生徒に関しては、担任以外の教員が話しかけ、孤立させないようにしているとのこと。「廊下での会話が田奈高校の教育の要」(伊東先生)だそう。

Close up ② 身近な問題から考える

「進路研究」と「生活研究」を 併せて「総合A」として学習

同校のキャリア教育のプログラムの中心は、「環境と自分」をテーマにした1学年の「総合A」で、週に一度2時間の授業を行う。オリジナルテキストは「進路研究編」と「生活研究編」の2冊組。職場見学体験を中心に、職業や進学について学ぶのが「進路研究編」。そして、「生活研究編」には、情報、生活、喫煙・飲酒・薬物などについての内容が盛り込まれており、2冊は交互に進行していく(図3)。テキストに書かれている内容は具体



1年総合Aのテキストは「進路研究編」と「生活研究編」に分かれている

図3 1年「総合A」の年間スケジュール（2008年度）

※GW＝グループワーク

月	回数	授業内容	授業内容	目的・ねらい・キャリア発達課題内容(2009年度作成)
4月	1	授業オリエンテーション	シラバス配布、科目の説明、およびその年間の授業予定など	
	2	【進路】アイスブレイキング・あなたのイメージ	パスデーチェーン、「あなたのイメージ」はノート学習、GW(グループワーク)	全体としての導入・ゲームを通じてのコミュニケーションづくり、GWの初実施、ワークを通じてのコミュニケーション理解能力・自己理解能力
	3	【進路】エゴグラム	ノート学習	自らの「キャリア」を考えることについての導入、自己理解の能力、ポートフォリオ資料
	4	【進路】見方を変えれば	GW、ノート学習	自己理解・コミュニケーション理解能力
	5	【進路】職場見学体験とは？	ノート学習、職場見学体験第1次希望調査	職場見学についての導入、概要説明、およびその分野別の希望調査
5月	6・7	【生活】携帯電話の利点とリスク	携帯電話の使い方を考える、ノート学習、GW	
	8・9	【生活】携帯で扱う様々な情報	ネット上の個人情報の危険性を考える、ノート学習、GW	
	10・11		サイト上の書き込みを考える(トラブルをめぐる新聞記事から)、GW	
6月	12	【進路】あなたの学習を見直そう	ノート学習	
	13	【進路】マナー研修	外部企業PDS講師による授業	職場見学事前学習、社会人マナーの基本的内容・考え方の学習、コミュニケーション理解能力
	14		事後のまとめのノート学習、職場見学体験第2次調査	前回研修の学習内容確認、コミュニケーション理解能力、具体的な事業所と体験内容の提示と希望調査
	15	【進路】私にとって大切なもの	ダイヤモンドランキングのノート学習	
	16	【進路】職業インタビュー	事前準備、質問事項を考える、ノート学習	職場見学事前学習、コミュニケーション理解・職業理解能力。具体的な質問項目の作成を通じて、職業への意識を高める
	17		職場見学体験先企業の方との質疑応答による授業	職場見学事前学習、コミュニケーション理解・職業理解能力。講師との質疑応答・やり取りより、「働くこと」の意義、その認識を高める
	18	【進路】あいさつと自己紹介	職場体験事前準備、挨拶・自己紹介の文章作成、ノート作成	職場見学事前学習、コミュニケーション理解能力。「自己紹介」作成を通じて、自己表現力、マナーの意識、総じてのコミュニケーション力の向上を図る
7月	19・20・21	【進路】事前準備・ワークシート作成	ワークシートの項目・内容記入にそって確認、交通経路確認、困ったときの対応など	職場体験の事前学習、情報収集・活用・コミュニケーション理解・職業理解能力。ワークシートの記入・作成を通じて準備・確認作業を進め、諸スキル向上を図るとともに、体験本番に向けての意識を高める。また、体験成果の定着を図るために、体験目的を明確化する
7月8月		職場見学体験体験先別説明会	事前アンケート	職場体験の事前学習、情報収集・活用・コミュニケーション理解・職業理解能力
	(3回分)	職場見学体験		自己表現力、自己理解・情報収集・活用・コミュニケーション理解・職業理解能力
9月	22	【進路】事後指導	事後アンケート、ワークシートの整理・完成	職場見学事後学習、体験内容の共有化、コミュニケーション理解・職業理解能力、体験成果のフィードバック、事前の自己目標との検討により経験内容を考察する
	23・24		GW、職場見学を振り返ってカード記入、クラス掲示	
	25・26・27		体験先へのお礼状作成、下書きと清書、ノート学習	職場見学事後学習、自己理解・職業理解・情報収集・活用能力、礼状の作成を通じて、諸スキル向上を図るとともに、体験内容の振り返りと確認作業を進める
10月	28	【進路】デートDV防止の学習	NPOの講師による	
	29・30	【進路】様々な仕事と資格	GW、ノート学習	自己理解・職業理解・情報収集・活用能力。「職業」についての概観、基礎的な知識を学ぶ
	31	【進路】フリーターとは？	ノート学習	自己理解・職業理解・情報収集・活用能力。「フリーター」の定義・正規・非正規雇用などをあげつつ、「働くこと」についての意識形成をめざす
	32	【進路】フリーターの将来		
	33・34	【進路】フリーターの権利		
10月11月	35～43・45・46	【生活】喫煙・飲酒・薬物	ノート学習、ビデオ視聴、感想文提出	
	44	卒業生講話	卒業生進学者による講話	自己理解・職業理解・情報収集・活用能力
11月2月	47・48・49	【生活】交通安全 原付運転、標識、停止距離、事故の処理、ルール	ノート学習	
	50	【進路】働く者の権利	ノート学習	自己理解・職業理解・情報収集・活用能力。「労働法」についての基礎的な知識を学びつつ、働く者の権利を知り、より良い労働環境についての意識を高める
	51・52・54・57	【進路】雇用トラブルの例と考え方	GW、ノート学習	
2月	53	中央大学との連携授業	ある高校生の進路のケース分析	
	55・56	進路ガイダンス	専門学校講師による授業	
	58	ガイダンス事後指導	ノート学習	

的で、高校1年生が実感しやすいもの。考えを書いたり、○×をつけたり、自分に照らし合わせて考えることができる内容になっている(図4、図5)。「本校の生徒にとって、進路と生活は切り離せないもの。今の生活があつて、それが進路につながつていく」と中田先生。「生活研究編」の目的は、日常生活にひそむ様々な課題やリスクについて考え、楽しく充実した生活を送ること。生活を通して「自分」について考え、「自分」を大切にし、進路につなげていってほしいとの思いが背景にある。

「働く権利」についての授業

一方の「進路研究編」でも、高校1年生に身近

図4 総合Aテキスト「進路研究編」より

[illegible]

図5 総合Aテキスト「生活研究編」より

やってみよう 1

次の問いに関する自分の解答を記入しよう。

No.	質問		解答
	ア	イ	
1	たばこの煙には、何種類（いくつ）の有害物質が含まれているでしょうか？		解答
	ア. 約400種類	イ. 約4,000種類	
2	1本のたばこには約15 mgのタールが含まれていますが、1日に20本の割合で吸うと年間約25 gのタールに当たることになるでしょうか？		解答
	ア. 約0.25 g	イ. 約0.4 g	
3	A. 約3 mg (コップ3杯) B. 約30 mg (コップ30杯) C. 約20 g (コップ10杯) D. 約200 mg (コップ100杯)		解答
4	たばこの煙に含まれている酸化窒素の量は約100 μg以上でしょうか？		
	A. 1 μg	B. 10 μg	解答
5	たばこは有害物質すべて何なしですが、何種類の有害物質とするとよいですか？		
	A. 約10種類	B. 約30種類	解答
6	肺がんの原因となるたばこの煙にはどのような成分が含まれているのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
7	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
8	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
9	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
10	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
11	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
12	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
13	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
14	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
15	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
16	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
17	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
18	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
19	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
20	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
21	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
22	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
23	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
24	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
25	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
26	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
27	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
28	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
29	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
30	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
31	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
32	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	解答
33	たばこを吸う高齢者、肺がんの発症する危険度について1歳と2歳を比べるとどうなるのでしょうか？		
	A. 約10%	B. 約30%	

な問題を取り上げている。特徴的なのはフリーターや労働トラブлについての授業だ。取り組みを始めたきっかけは、研究開発グループの吉田美穂先生による政経の授業。ある時、アルバイトの権利について話をしたところ生徒たちの反応が非常によかったため、総合Aに取り入れることにした。

もちろん、フリーターが正社員に比べいかに不安定であるかということも伝えている。しかし、現代の流動化する雇用情勢を考えると、フリーターになる生徒をなくすことは難しい。そこで、せめて権利を知りリスクを乗り越えるスキルを身につけてほしいということで、非正規雇用も含めての働く権利について教えている。なお、同校では1学年の3月で7割以上がアルバイトを経験。そのなかで、知識がなかったために、一部の生徒が不当な扱いを受けていることもわかってきた。「アルバイトに関する授業は、将来に備えてだけでなく、今目の前にいる生徒を守るためにも必要」と吉田先生は言う。

Close up ③

外部との連携

だ。当日は簡単な仕事を経験したり、社会人とコミュニケーションをとったり、受入先によってプログラムは違う。そして後日、グループディスカッションやワークシートへの記入をし、礼状を作成する。礼状作成には3時間をとっているが、きちんとした手紙を書くのがほぼ初めての生徒たちに、手取り足取り清書まで指導するとなると時間は足りないそう。

総合Aを担当する長島先生は言う。「時間どおりに行く、礼状を書く、そういうことの指導に手間ひまがかかるうえ、一部の生徒たちは、遅刻をして帰されたり、自分たちの価値観を真つ向から否定されて反発したり、その大変さにかえつてやる気を失ったりします。教員の間でも、そこまでしてやるべきか賛否両論あるんです」

それでも全員参加で続けるのは、「人生のキャリアのスタート地点ともいえる高校1年生の時の体験は、これからの人生を考えるうえでのスイツ

手になる」という思いからだ。「大切なのは、いろいろな思いをして、そこから何を考えていくか、将来の職業や仕事に対する取り組みにどう生かしていくかです。職場見学体験をそういう機会にしたいと思っています」

もちろん、達成感や満足感をもって体験学習を終える生徒は多い。彼らにとっては、初めて会う大人とコミュニケーションをとれたことが自信につながるという効果が大きいそうだ。

そのほか、外部と連携した取り組みは、1年生の一部が参加する中央大学との連携講座。大学院生とのグループディスカッションが中心だ。ある若者のキャリアの事例（正社員→バイト→契約社員→正社員→パート）などを参考に、例えば「あなたはどっち？ 自由な時間＆不安定な暮らしVSがまんする安定した暮らし」などと投げかける。年齢の近い学生との対話に刺激を受け、楽しんで参加する生徒が多いという。

そして、2学年では「総合B」の選択講座のなかに、キャリア教育に関する講座を5講座、さらにそのなかに外部と連携した体験型学習の講座を4講座開設（図6）。卒業生などにも協力を仰ぎ、より深い体験を希望する生徒にんでいる。

それぞれの学習や体験に 有機的なつながりを

一方で、これらの取り組みには課題も多いというのは伊東先生。特に問題なのは、一つひとつの

取り組みが全体のなかでどう位置づけられているかがはつきりしていないことだ。

「例えば、総合Bでは、生徒たちは思い思いに講座を選択していますが、本当は職場見学体験など総合Aとのつながりをふまえた選択が必要です。職場見学体験を始めたときは、外部の人に協力してもらい、生徒たちに『大事に思っている大人がいる』ことが伝わればよかった。けれども、そこにエネルギーを注ぎすぎて、全体の流れのなかに定着できていませんでした」

そこで、今年度からは新たに振り返りのためのポートフォリオを導入。生徒も教員も、学んでいることを振り返ることができる仕組みを作っていく。「あの時はこう考えた、こんなふうに思った。こう変わった。そういうことを、教員と生徒が一緒にとらえなおしていければ」と伊東先生は語る。

取り組み内容にはまだ精査が必要であり、もし

キャリア教育の成果を進路未定者の数字の変化でとらえるとすれば、田奈高校の場合、結果が出ているとはいえない。けれども、進路未定者の中身は変わってきている。「アルバイトをしながら正社員を目指すなど、ただの『未定』とするにはしのびない、前向きな生徒が増えてきました。『ちゃんと働きたい』という気持ちは芽生えているのです」と伊東先生。また、中退する生徒は減りつつ、学校行事に参加する生徒が増え、校内に活気が出始めた。そして、前期入試の倍率はここ数年3倍を超えている。学区撤廃など外的要因も大きいが、在校生や卒業生による「田奈高の先生たちは生徒としっかり向き合ってくれる」という口コミの効果もあなどれないようだ。

図6 2年「総合B」のキャリア教育プログラム

講座名	内容	選択人数(人)
インターンシップ	夏休み中3日+事前事後指導	20
専門学校実習	夏休み中4日+事前事後指導	31
アルバイトから考える	通常授業+就職した先輩訪問	16
映像で知るキャリア	通常授業	38
地域で福祉を体験する	通常授業+老人福祉施設体験	14

総合Bには選択制の12講座があり、原則2講座で1単位取得となるが、インターンシップと専門学校実習は1講座1単位と換算。12講座のうちキャリア教育的な講座は上記の5講座で、218人中のべ119人が履修した

REPORT

■職場見学体験(1年)の感想より

○体験を通して、仕事というものがあらためてわかった気がする。商品の配列などとても工夫していた。毎日こんなだと疲れると思うから、働いている人はすごいと思う。ハッキリ、しんどかった。

○まずは挨拶の練習。一度もあらまて挨拶をしたことがなかったので緊張しました。店頭での挨拶は本物のお客様なので、ミスをしないように別の緊張もしてガチガチ。親から聞いていたより大変な業務だと思いました。今回の体験も将来の進路として考えてみたいです。

○袋詰めの作業をやったが、簡単そうに見えてこれがなかなか難しい。店の人は流れるように作業しているのに、自分はなんてぎこちない。終了後、単純作業でしたが、すごく疲れている自分にびっくり。労働って大変だなと思いました。